

令和5年度 第1回下野市生涯学習推進協議会議 議事録

- 審議会等名 令和5年度第1回下野市生涯学習推進協議会議
- 日 時 令和5年6月16日（金）午後2時45分から午後4時まで
- 会 場 下野市役所 3階304会議室
- 出席者 鈴木健一会長、榆木久美子副会長、田澤孝一委員、石川知子委員、
下山千恵子委員、梅山博行委員、大垣玉枝委員、松本文男委員、菊地孝宏委員
【欠席】上野文夫委員
- 市側出席者 坂村哲也市長（生涯学習推進本部長）
（事務局）生涯学習文化課 根本宣明課長、橋本幸昌主幹、大塚隆邦主査、山中裕貴主査
- ・公開・非公開の別 （ 公開 一部公開 非公開 ）
- ・傍聴人 なし
- ・報道機関 なし
- ・議事録（概要）作成年月日 令和5年6月26日（月）

【協議事項等】

1. 開会（根本課長）
2. 会長挨拶（鈴木会長）

（鈴木会長）皆様こんにちは。委員の皆様、市長様にお忙しいところ出席いただきありがとうございます。今年度第1回の会合ですが、事前の連絡のとおり昨年度から来年度までの事業について、回数が少ないものですから、幅広く検討していくこととなりますのでどうぞよろしくお願ひします。さて、委員の皆様もご承知おきかと思いますが、少し前の下野新聞に、下野市民の健康寿命が県内トップクラスとの記事があり、驚きましたが、良い記事だと思いました。健康寿命については、これから長生きの時代で、健康で安全に暮らせることは第一ですので、そういう意味では、市が展開する健康スポーツ、栄養等の施策がスムーズにいつているのではないかと思います。加えて、市民の方一人ひとりが、生涯学習の中で、健康スポーツや栄養に関し、積極的に取り組もうとする、生涯学習に対する意欲が背景にあるのではと考えられます。これは私が勝手に考えていることですが、実は市担当者に要因を伺ったことがあります、総合的な結果ではないかと言われた。しかし、推測するに、人間ドッグ受診率、精密検査のフォロー、フォローができる病院の体制など諸々の背景があるのかもしれない。統計的に出せれば積極的になれるのではないかと思いますし、こういった成果が引き継がればよいなど、我々の生涯学習の推進に少しでもお役に立てるのではないかと思います。今回の議題の一つに、令和6年度の生涯学習推進について、市の生涯学習推進本部長であります市長様にご提言を申し上げるという議題も入っております。市長様におかれましては、令和5年度により多くの私どもの提案を受けていただきまして大変ありがとうございました。令和6年度も提言させていただきますので、ぜひお取り入れいただき、市民の皆さんと一緒に、生涯学習推進のまちづくりを進められればなと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひします。市長様へのお願ひ方々

の挨拶で申し訳ありませんが、どうぞよろしく申し上げます。

3. 市長あいさつ〈坂村市長〉

(坂村市長) 皆様こんにちは。一言ご挨拶を申し上げます。まず、本日、令和5年度第1回下野市生涯学習推進協議会に大変お忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃から本市の生涯学習の推進に関しましては、鈴木会長を始め、委員の皆様、様々な形で多大なるご支援ご協力いただいていること、心から感謝申し上げます。皆様ご存じのとおり、日本におきましては人生100年時代を迎えておりますけれども、私も人生というものをいつも考えていることですが、それぞれの人生、想像を超えた素晴らしい未来が待っていると私は思っております。どのような人にもやはり大きな価値があると思いますので、ぜひ、生涯にわたって皆様に多くを学んでいただきまして、一生懸命に生き抜く力を付けていただくことが私は大事だと思っております。今年度も、下野市生涯学習推進計画の理念に掲げます、生涯学習を通じたひと・まちづくり『共に学び・つながり・協働でつくる 豊かなしもつけ』を目指しまして、本市の生涯学習を全庁的・横断的に推進してまいりたいと思っております。ぜひ、委員の皆様から忌憚のないご意見をいただけますよう、お願い申し上げます。簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

(根本課長) ありがとうございます。坂村市長につきましては、このあと別の公務の予定がございますが、予定時間まで協議に同席させていただきますのでよろしくお願い申し上げます。ここで、4月に事務局職員の異動がございましたので課長以下、事務局自己紹介をさせていただきます。

<事務局自己紹介>

4. 議事

(1) 令和5年度下野市生涯学習推進協議会スケジュールについて

(根本課長) これより議事の進行は、下野市生涯学習推進協議会設置要綱第6条第1項に基づき、鈴木会長にお願いする。

(鈴木会長) 議事時間等について確認する。今日は議決事項はありません。次回は提言について議決したい。16時前後を目安に進めたい。よろしいか。

<委員了承>

それでは、スケジュールについて事務局より説明を求めます。

(事務局) 資料1に基づいて説明。

(鈴木会長) スケジュールについてご承知おきということでよろしいか。

<委員異議なし>

(鈴木会長) 次回会議は7月11日に予定し、令和6年度提言をまとめて早期に本部長に提出したい。というのも、次年度事業は、財政課査定、市長査定、議会議決という手順を踏むが、事務上は8月あたりから始まっている。一番は公民館講座や図書館の企画に対してである。公民館では8月下旬頃に企画をまとめているそうなので、提言を参考にしたいので、できるだけ早期に提言したい。特に、社会教育指導員が企画を始める時期に間に合うよう協議を進めてまいりたい。また、エール各戸配付に関して、自治会加入率が下がり7割を切っていると思うが、アパートやマンション

ンへの周知も必要になってきているのではないかと思います。

(事務局) 現状では、公民館や図書館等で入手することができる。

(鈴木会長) ニーズがある方、困っている方、例えば、子育てに悩んでいる方向けの講座も各所で実施しているので、そのような方に届くよう周知を検討いただきたい。全戸配布は、他市町ではサービスが良いと驚かれる珍しい取組と思う。

(事務局) エールの全戸配布は、当課の看板事業である。

(鈴木会長) エールは市ホームページに掲載されていると思うが、見つらい。目的のページにたどり着けなかった。

(2) 令和4年度生涯学習実績報告について

(鈴木会長) 事務局より説明を求める。

(事務局) 資料2に基づいて説明。

(鈴木会長) 多岐にわたりますが、内容について質問等ございますか。事前にご質問いただいている大垣委員をお願いします。

(大垣委員) 今の報告の中で、マナビ小学校ってどんなところ、を石橋公民館がやっているのを聞いたとき、私意見の中でできれば各地区で実施してほしいと言ったと思うが、令和4年度は国分寺地区だけ入っていないのは、どうなのか。令和5年度は事業として予定しているか。

(事務局) 令和5年度も事業として取り組めていないが、令和6年度に向けて国分寺地区でも行えるよう調整しているところ。社会教育指導員の学習や実施地区の講座に混ざるような形で、令和6年度はぜひ取り組めるようにしたいと考えている。

(大垣委員) すでに2地区で実施しているので、ぜひ取り入れていただきたい。

(鈴木会長) 私も大垣委員に賛成である。せっかく良い講座を石橋公民館で企画したわけなので、評価は色々あると思うが、他の館でも共有したらよいと思う。ただ、公民館の自主講座なので、リーダーシップの問題で難しいところもあるとは思う。言いにくいところではあるが、施策全体の取りまとめは生涯学習文化課なので、また、8月下旬には各館で企画されると思うので、早めに課からぜひ企画してくれないかとのアドバイスやノウハウの共有があっても良いのではないかと思います。

(事務局) 館長にプッシュしていきたいと思う。

(鈴木会長) 小学校に上がる際の不安はあると思う。本庁と出先の関係で、それぞれの館で予算を持っていると思うので、バランスを取りながらであるが、本庁から指導助言があってもよいのではないかと思います。そのほか委員から質問等あるか。

<市長退室>

(田澤委員) 資料2の21ページの、国分寺公民館のスマートフォンをスマートに使うの実績について、説明文がわかりにくい。定員10人の3回開催で、定員の4倍の申し込みあったとあるが参加人数は延べ23人となっている。定員を超えていれば30人となると思う。整合性が読みとれるよう表現してほしい。3ページの国分寺公民館のやさしい大人の塗り絵教室も同じである。

(事務局) 表現を確認しながら作成していきたい。

(石川委員) スマホ講座に関連して公民館講座の定員から漏れた4分の3の方へのフォローについては、課ではどのように考えているのか。学びたい気持ちを大切にしたい。例えば、

その講座を受けた方々が、自主講座化して受け入れたりするなど、多少なりとも門戸が開けるといいなと思う。

(事務局) 後につながる展開、そういったところにも働きかけしながら、事業を展開していきたい。

(鈴木会長) スマホが不得手の方に対応するため、スマホ講座は今後とも充実させていかないと厳しいかもしれない。前回の国勢調査では、ネット回答率が下野市はトップクラスであった。すごく簡単だった。調査員が回って、面会できない、叱られたりする苦勞を考えると、もったいない感じがする。公民館講座だけでなく、社会福祉協議会のふれあいサロンの中で、サロンと公民館が共催する、又は出張講座という形でも良いので、進めていただけるといいのではないかと思う。最終的な目標は同じかと思う。ぜひ、ICT環境の充実は進めていただきたい。

(下山委員) 15ページの自治医科大学公開講座について、令和4年度はWEBでの動画配信であったが、令和5年度の開催方法はいかがか。

(事務局) 令和5年度は、7月中計3回自治医科大学地域医療情報研修センター大講堂で救急医療をテーマに対面開催を予定している。密を避けるため定員を250名としていることもあり、すでに定員に達したと大学から連絡をいただいている。

(鈴木会長) 16ページにある国分寺図書館が開催した自治医科大学医学講座に私も参加した。非常にわかりやすく丁寧に教えていただいた。多くの方に受講してもらいたいと思うが、現状では、国分寺図書館視聴覚室という狭い会場であったので、非常にもったいない。国分寺公民館や市庁舎の広い会議室など別の広い場所の変更したり、国分寺図書館以外で企画することはできないものかと思う。国分寺図書館では医療を特色としているが、他の施設や部署が企画できないような状況になっているのであるとすればもったいない。

(下山委員) 私も狭い会場で開催するのはもったいないと思う。

(鈴木会長) 自治医科大学との連携については、講座を企画運営する所管課や施設の問題もあるが、市民にとってのメリットがあるのはどのような形かという観点で大きな枠で捉えて、広い場所で開催していただくのがよいのではないかと思うのでよろしくお願いしたい。

(事務局) 図書館指定管理者と定例会を行っているので、その中で方向付け、調整を図っていきたい。

(鈴木会長) ぜひよろしく。国分寺図書館には自治医科大学のコーナーもある。市全体としても自治医科大学との関係は重要。市民全体が受講できるチャンスができる。公開講座については、事務局長が熱心で企画されたと記念誌に書かれていた。自治医大の先生方とタイアップしていくのがよい。

(松本委員) 26ページの、高校生地域定着促進事業について、高校生同士の音楽交流フェスを企画したが、アドバイザーとして私も関わった。市庁舎1階ロビーを会場に開催したが、フラットな場所であったため、かわいそうだった。もう少し広い場所で行えたらもっと良かったのかなと思う。高校生自身が自分たちで企画して、自分たちで呼び込みをしていた。余計な話はできないかもしれないが、この企画を定着させるには、もっと規模を拡大し広い場所で行うのがよい。高校生だと、ダンスサークルの参加などもありうる。企画の中に盛り込ませて、膨らませるのであれば、広い会場を提供してもよ

いのではないか。定期不定期に開催できれば、高校生たちの活躍の場を提供できるのではないかと思う。音楽フェスのみならず、3地区で展開するなど、次世代を担う高校生たちの意見を取りまとめながら進められれば、よりよい下野市の未来をつくることを考えたときには良い手法であると思う。この事業は総合政策課が窓口で、地域おこし協力隊がサポート役をしているが、生涯学習に通じる部分が多くあるので、いっそう展開できればよいと思う。

(鈴木会長) 高校生が生涯学習の事業に関わることは中々ない。松本委員の提案された方法は良い方法であると思う。栃木市には高校がたくさんあることもあり、部活でも取り組んでいるし、出身中学が同じという方が結構いて、高校生がまちづくりに絡んだ活動は熱心である。石橋高校生が協力していただきたいと思うが、中々難しいところもあるとは思う。

(石川委員) 栃木市は市民活動センターが昔からしっかり活動している。下野市にも市民活動センターができたが、今一つ活動がピンとこない。市民活動センターと生涯学習文化課とが連携して展開が見えてくるのではないか。

(鈴木会長) 市民活動センターの所管課はどこか。

(事務局) 市民協働推進課である。

(鈴木会長) 利用者の意識では、広い意味では生涯学習・社会教育施設である。公民館と似ている部分がある。栃木市はボランティアセンターも運営しているかと思う。

(石川委員) 栃木市は、とちぎ市民活動推進センターくららという施設がある。

(鈴木会長) 高校生の活動ではとちぎ高校生蔵部という熱心な団体がある。各課で同じような事業をやっているのではないかと思う。

(事務局) 本市の市民活動センターについては、1階交流スペースで中学生も自習で利用している。敷居を低く、事前予約なしで、だれでも使えるようにしていると聞いている。

(石川委員) 以前に利用したら、住所や氏名、電話番号まで書かされた。

(事務局) 現在の状況を所管課に確認する。

(鈴木会長) 生涯学習や社会教育については、教育委員会管轄から首長部局へ移そうとする話が一部の自治体ではあるようだ。生涯スポーツも、教育委員会ではなく、教育委員会はどちらかというと学校教育に特化、社会教育に関しては、首長部局に行くという。政治的な中立性・公平性を保つという教育委員会のあり方がある。中々難しい問題であるが先ほどの話題は、そういうところも絡むと思う。市民協働推進課が実施する社会教育的なことと、生涯学習で行っている社会教育。あるいは首長部局で実施するスポーツ関係と、教育委員会で行うスポーツ関係のことでは違う。

(鈴木会長) その他委員から意見質問等はあるか。

<委員意見なし>

(3) 令和6年度事業への提言について

(鈴木会長) 事務局より説明を求める。

(事務局) 資料に基づいて説明。

(鈴木会長) 論点整理いただいたとのことですが。先ほど、松本委員からご意見出ましたが、若者の活躍の場ということについても、提言内容に入れていきたいと考えています。それから、楡木副会長から事前意見がありました。

- (楡木副会長) 高齢社会の中、食事や会話が大切であるので、老いの食育について検討していただきたい。また、前回の議論でもあったが、学ぶための移動手段の確保について、良案があればいい。ボランティア、地域の仲間と受講するなどしかないか。
- (鈴木会長) 出張講座のようなものもあってもよいのかなと思う。前回、大垣委員からも意見があったかと思う。地域の自治公民館のほうが市内の3つの公民館よりも近いという場合もある。また、自治会の協力があればある程度集客も見込めるかと思う。確かに高齢になると出づらくなり、ますます孤立してしまう。
- (石川委員) 先日の社会教育委員会議では、社会教育施設の機能強化の提言について協議したが、資料の3番の項目が関連すると思った。石橋公民館では、高校生が学習室をかなり利用しているとの意見があった。利用時間を延長したという話もあった。こちらから提案したものに若い方が参加することはとても難しいように感じる。逆に、約束ごととも必要であるが、フリーのスペースがあったら自由に使っていよいよ、というように展開した方が、若い方にとっては、もっと身近に感じられるのかなといった感じがした。また、親子連れにしても、絵本を置いたりなどの環境づくりをしたらよいのではないかという意見がありました。
- (鈴木会長) 図書館は来ると思うが、石橋公民館の学習室について、高校生あんなに来るのかと正直驚いた。ただし、残念な点としては、学習スペースが小中学生サイズで狭いこと。区切りを1つずつ外してもよいのではないかと思う。今は高校生の教科書もA4版に大きくなっている。広げるとA3になる。一方、学習室内の防犯カメラ設置など、安全管理は徹底されている。管理室にモニターがある。個人のプライバシーもあるが、学習室は2階にあり、安全配慮を第一に考えて設置したものと思う。確かにフリースペースがあると良い。大垣委員から事前意見あったが、いかがか。
- (大垣委員) 先日、コミュニティセンター友愛館で、東方台地コミュニティ推進協議会が、輪投げ大会を実施した。協議会の会長や事務局長が声をかけて、ジュニアリーダースクラブの会員が何人も手伝いに来てくれた。小学生からシニアまでたくさんの方が参加した。ジュニアリーダースクラブの会員が小さい子に声をかけたりして、良い雰囲気で開催できた。そのようなことをきっかけに若者の参画が図れたことはすごいこと。そのようなことに目を向けていただきたい。
- (鈴木会長) ジュニアリーダースクラブの活躍のチャンスとして良い。中高校生が社会で認められるチャンスは中々ない。中高生に地域の体育祭に出てもらいたいが、部活等の兼ね合いで難しいのが現状。
- (大垣委員) 子どもたちだけが聴く、移動音楽教室が国分寺東小であったが、家庭教育学級の中で、親子で聴ける音楽鑑賞を実施するのが良いのではないか。先日のうたよみカンタの合唱を聴いて音楽は素晴らしいと感じた。
- (下山委員) 15周年、コロナ禍2年含めると17周年として開催した。
- (田澤委員) 生徒たちは聴く機会はあるが、親と一緒にということでは実施していない。対象者が決まっている場合もあるので、演奏団体との調整もあるかと思う。
- (鈴木会長) 音楽の選曲の趣旨もあるかと思う。親子のグループ単位でなくても、聴く場所を子どもと親を分けるなどもあるかと思う。
- (大垣委員) 親子で同じ音楽を聴くことで、家に帰ったあとの会話も弾む。

- (下山委員) かつて国分寺東小では、保護者の方もどうぞというお知らせがあり、聴けたことがあったと思う。
- (鈴木会長) 委員からご発言いただいたことについては、ぜひ提言に入れることを検討したい。私からは、自然災害に関する提言については、台風19号を念頭に置いていたが、地震対策を加えてはどうかと思う。耐震基準を満たさない建物も市内にはあると思う。地震発生時のマイタイムラインのような、実際の行動に結びつくよう自分で考えておくことが必要ではないかと思う。また、地震に伴う火災についても念頭に置きたい。最近ニュースも多い。大きな地震が発生しないとは言えない。それから、ICT関係は引き続き盛り込んでいきたい。基盤整備もしていかなければならないと思う。Wi-Fi整備は進んでいると聞いたがいかがか。
- (事務局) 石橋公民館はすでに全館利用可能であったが、他の3館について、今年度、ホームルーター導入を予定している。夏頃に導入予定。
- (鈴木会長) 公民館講座でもWi-Fi活用が可能と思うので、必要性がある。一方、学校でのタブレットの普及状況はいかがか。
- (田澤委員) 学校では1人1台普及しており、家でも使用している。自宅にWi-Fi環境がなければ、ポケットWi-Fiを貸し出している。宿題については、eラーニングソフトがあるので、漢字練習や計算練習に取り組んでおり、使用頻度はかなり高まっている。子どもたちはスマホに慣れており、教員よりも得意。本市が導入した端末はiPadなので、ランドセルやバッグに納まる。全小中学生が持っている。
- (鈴木会長) そうだとすると、家でスマートフォン講座のようなデジタル機器の講座を実施できるのではないか。同居する孫から、持っているデジタル端末を使って、祖父母に使い方を教えることができるのではないか。
- (田澤委員) 利用制限はあるが、端末は使用できる場合がある。
- (鈴木会長) 市が提供するサイトを利用すれば可能ではないか。ジュニアリーダークラブ会員にスマホ講座の手伝いをしてもらったらいかがかとの話があった。また、先ほど一対一で教えることになるとの話もあったが、そのとおりの話もあつた。中高校生などに協力してもらうためには、土日開講も検討しなければいけない。若い人の活躍の場も結構あると思う。ICT関係は提言に盛り込んでいただきたい。それから、学習方法として、参加・体験型の講座を検討していただきたい。高齢になるほど、座学を好む傾向があるが、工夫してやっていきたい。そのほか意見等あるか。
- (松本委員) 先ほど、出張講座に関する意見が出たが、市ではリクエスト講座を用意している。付加価値を付けられないか。現在は、市民活動センターや公民館に参加者が集まって開催することが主流であるが、自治会公民館やコミセンなど色々な場所へ出向くことはできないか。また、講師のジャンル分けをして、市職員以外の市民ボランティアも、講師として出向くというシステムづくりを検討してはどうかと考えている。
- (鈴木会長) 出前講座は色々用意してある。いくつかの団体が出前講座を頻繁に依頼していると聞く。
- (石川委員) 生涯学習情報センターで、生涯学習ボランティアバンクを運営している。色々な特技や知識などを持つ市民の方が登録し、センターでマッチングしたうえで、活躍の場を提供している。

- (松本委員) 私自身、生涯学習ボランティアバンクに登録しており、他にも沢山の登録者はいるが、残念ながら活動の場が中々ない。
- (鈴木会長) もしかしたら、生涯学習情報センターからの紹介やあっせんがないと、マッチングが上手くいかない可能性もあるのではないかと。知らない人だと頼みづらいかもしれない。
- (松本委員) 各種ボランティアがいることをもっと広報してほしい。技術を持っている人がもんとしている。
- (鈴木会長) 昨年度、自治会長を務めたが、市環境課にごみ減量に関する説明会を、日曜日午前中に開催した自治会総会の際に行っていただくよう依頼したことがある。すごく良かった。ごみ減量のようなテーマは市民協働でやっていただくといいかなと思う。それでは、以上でよろしいでしょうか。
- <委員から発言なし>
- (鈴木会長) それでは、令和6年度事業への提言については、このあと、事務局と私とで原案作成を進め、次回の会議までに示したい。以上で、議事を終了する。進行を事務局へお返しする。

5. その他

- (根本課長) 次第「その他」について、事務局より説明願う。
- (事務局) 参考資料1「令和5年度生涯学習文化課事業概要」に基づき説明。次回の協議会は、資料1に示したとおり、7月11日（火）に開催する予定である。追って通知させていただきます。

6. 閉会